

湘南学園だより

発行：湘南学園だより編集部



contents



誇りをもって羽ばたく！
 今までの殻を脱皮してこそ新たな世界が広がる
 仲間とともに
 湘南学園小学校2015
 第56回関東地区私立小学校教員研修会

「雪の学校」活動報告
 新「のびる芽」へ
 国際ロータリークラブ・長期交換留学とインターアクト
 ソーシャルメディアを巡る指導課題
 中3研修旅行～生き方を考える第1歩～
 学校法人からのご報告

理事長	辻 彰彦	02
学園長	仲本正夫	02
幼稚園年長組学年主任	箕輪 ゆか	04
小学校校長	榎本勝己	06
小学校教頭	河本洋子	07
小学校教育研究主任	五十嵐竹虎	08
小5学年主任	鈴木智洋	08
小学校学習指導主任	笠井多香子	08
中高企画主任	吉川謙太郎	09
中高生活指導主任	福田孝政	10
中3学年主任	川口 薫	11
		12

誇りをもって羽ばたく！

理事長 辻 彰彦



で考えるととても大切な力を磨いて卒業していくはずで
す。そして、それは数多くの困難が待ちかまえているであろう
実社会に出た後でも、きつとみなさんを支えてくれるはずで
す。

どうか湘南学園生であったことに誇りをもって羽ばたいて下さい。

卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

これからのみなさんの人生が幸せに満ちたものであることを心よりお祈りいたします。

湘南学園のさらなる発展を願って

私自身、湘南学園での11年間で数多くの事を学ばせて頂きました。特に湘南学園で学ぶすべての子どもたちには、すばらしい個性、才能がありました。

大袈裟ではなく、本当に可愛い子どもたちばかりです。

また、有難いことに、多くの保護者、教職員および学校関係者の皆様のご理解とご協力によ

って、お陰さまで無事に理事長の重責を果たすことができました。心から厚く御礼申し上げます。



小学校の合唱

長い間、本当にありがとうございました。



幼稚園の和太鼓



式典で挨拶する辻理事長



中高の吹奏楽

湘南学園創立 80 周年記念式典の風景 (2013.11.15)
辻理事長がチーム湘南学園でつくった実行委員会の委員長を務めた。

今までの殻を脱皮してこそ

新たらしい世界が広がる



学園長 仲本正夫

卒業おめでとうございます

3月は卒業の季節、幼稚園、小学校、高校それぞれで卒業（園）式を行います。

卒業（園）は、皆さんが、人間としてさらに一回り大きくなっていくための新しい舞台に立つということではないでしょうか。そのためには、トンボが新しい世界に飛び立つために、これまで自分を育ててくれた幼虫の殻を脱ぎ捨て、脱皮しなければならぬのと同じです。

トンボは、脱皮（羽化）すると、今まで自分を育ててくれた殻と別れることを惜しむかのようにはばらくの間つかまって力を蓄え、やがて羽をうち振るわせて大空に飛び立ちます。

今、皆さんの前にはわくわくするような新しい世界が開けてきていると思います。どうかこれからも健康に気をつけて、新

しい舞台で、しっかりと世界と自分をみつめ、建学の精神を生かし、社会の進歩に貢献することを目指していただきたいと思っています。

保護者の皆様、お子様のご卒業おめでとうございます。

新年度より幼稚園五日制、

小学校隔週五日制へ

新年度から、よりよい教育をめざし、幼稚園は五日制、小学校は隔週五日制へ移行します。

幼稚園は六日制でしたが、藤沢市内の幼稚園では五日制となっており、小学校も、公立小はもろろん私立小の多くが五日制となっています。

湘南学園幼稚園と小学校は、長年続いてきた六日制という殻

業おめでとうございます。

八〇周年記念行事や八〇周年記念館建設はじめ、長い間、PTA活動等で、湘南学園発展のために物心両面で多大なご尽力を賜りましたことに心から感謝申し上げます。

を脱皮し、先生たちが、毎日元

気に笑顔で子どもたちに接する活力にみちた教育活動をすすめていくことをめざします。（中高は、大学受験等との関係で、現行通り六日制）

昨年夏から、このことについては、幼稚園・小学校の保護者の皆様には何度も集まっていた

話し合いを持たせていただきましたが、保護者の皆様からは大変暖かいご理解をいただいたことに感動いたしました。心から感謝しております。

いよいよ四月からは、幼稚園

学園の脱皮をリードした

辻理事長がご退任

辻彰彦氏は3・11東日本大震災のときに、学園に避難する人を三階に誘導していた私に、

PTAで翌朝、炊き出しをやりたいと飛び込んでこられました。誘導だけに目を奪われていた私は驚きましたが、翌早朝、PTAの皆さんは調達してきた食材を使って家庭科室で調理し、おにぎりともそ汁を地域の

人たちが、部活で残っていた生徒、中高教職員に提供し、本当に喜ばれました。辻氏の行動力は抜群でした。

辻氏は、二〇一〇年四月にPTA会長として理事となられ、その後二〇一二年から二〇一四年度の三年間は理事長として、八〇周年実行委員会の委員長を兼ねて、「八〇周年記念館」建設やそこに誕生するカフェテリアの運営、次期情報システムの構築などに、五年間に

は毎週土曜日がお休みとなり、小学校は隔週で土曜日がお休みになります。なお、教職員は、幼小とも隔週土曜日がお休みとなります。

わたり寝食を忘れて取り組みました。

とりわけ、辻氏の大きな業績のひとつに、次期情報システム構築で大きなリーダーシップを発揮されたことがあると思います。

かつてのサーバー室は、今、情報センターとして生まれ変わり、始動しています。

しかし、大変残念なことです。が、今春、三人目のお子様が高校を卒業されることから、理事長をご退任されることになりました。

湘南学園は、辻氏のリーダーシップなくしては、未来に向けての数々の脱皮をはかることができなかったのではないかと思います。

心からのお礼と感謝を捧げたいと思います。本当にありがとうございました。

仲間とともに

年長組学年主任 箕輪ゆか



問もなく、年長組の子どもの卒園の日がやってきます。

朝の支度が済むと、早速園庭に飛び出し、自分達でラインを引き「グーとパーでわかれましょ」と毎日ドッジボールを始めます。「入れて」と次々に仲間が加わり、かなりのスピードでボールが行き交います。うんていでは、一段ぬかしや二段ぬかしをしている子、松の木に登り、木の上から登園して来る友達に「おはよう。ここ、ここ」と大声で声を掛けている子、大縄跳びや、うずまきケンケンをしているグループもあり、朝の園庭は活気に満ちあふれています。二学期ともなると子どもが主体的にあそびを展開していくので、保育者の入る余地なしという感じです。何だか嬉しいような寂しいような気持ちになります。

年少組の頃

振り返ると、どの子も入園当初からこんなに活発だったわけではありません。入園式の日、お家の人に手を引かれ初めて幼稚園の門をくぐったときの子ども達

も達は、心も体も小さくて頼りない姿でした。いつも保育者の後をくっついてくる子や「ママに会いたくなっちゃった」と泣き出す子、友だちがあそぶ様子をただじっと見ているだけの子、ロッカーの中にかくれてしまつ子もいました。保育者が手をつなぎ、ともにあそび、同じ目の高さで見つめ、優しい笑顔で接することで少しずつ安心感を持ち、園生活に徐々に慣れていきました。

砂あそび、水あそび、曲に合わせてダンスをしたり、ごっこあそびなど、やりたいことを保育者と一緒に楽しむ中で、その場に居合わせた友達との関わりも少しずつ育まれていきます。自分がやってみたいと思うあそびを繰り返し楽しみながら気の合う友達もできてきます。その反面、自分の思いだけを強く主張するので、物の取り合いや、しよつと思つたのに相手に伝わらなかつたというこもあちらからこちらで起きます。一人ひとりの思いを保育者が汲み取り、代弁することで、相手の気持ちにも徐々に気付いていきます。

こうした一年間の生活を通して、幼稚園は楽しく安心できる場所となつていきます。



年中組の頃

年中組になると、友達と一緒にいることが楽しくなり、好きなあそびを通して仲間が少しずつ増えていきます。大人から認められるだけでは満足できず、仲間の中で自分の思いやイメージを受け入れられたとき、満足感を得ることができま

す。子ども同士の意見のぶつかり合いも多くなる時期です。友達との気持ちにどつ折り合いをつけていったらよいかを考えま

す。こうした繰り返しの中でコミュニケーション力を身につけていきます。また、日常の出来事をクラスで考える機会を持つことも大切に行っています。

帰りの会が始まる時、制作コーナーで制作をしておそんでいる子がいました。その子は「明日また続きできるよ」「○○くん待つてからね」という友達の声を聞くとあそびを止めました。もし「あそんじゃいけないだよ。帰りの会ができないよ」と言われたら、きつと止められなかつたでしょう。友達のを思いを汲み取つたこの優しい言葉掛けが心に響いたのでしよう。

一月に保護者の方に歌や楽器演奏を披露する『すみれコンサート』があります。それ以前に行われた年長組の『子ども会』（表現発表会）を観ているので、常に憧れを抱いている年長組の姿と同じようにやりたいという気持ちが芽生えて「さくらさん（年長組）はこうしてたよ」「始めのことばと終わりのことばがあった」「声が大きかった」「じゃあどつしよつ」「いね」と仲間と共通のイメージを持って取り組めるようになりました。

心をひとつに友達と気持ちを

合わせて歌ったり演奏したこと、仲間づくりに通ずる経験にもなります。

三月の卒園式には、年長組から年中組に『送る言葉』が伝えられます。「次はみんなが幼稚園のリーダーです。動物当番や小さい子達のお世話、幼稚園のことよろしくね」とお願いされたときの「はい」という返事はとても力強いものでした。

年長組の頃

年長組としての役割をバトンタッチされ進級した子ども達。進級式では園長先生から「今日から幼稚園のリーダーです。みんなの力で楽しい幼稚園にしていましょつ」と一人ひとりに『リーダーのきつぷ』が渡されます。受け取るときの子ども達



の顔は、喜びと自信にあふれています。



最年長となると、ひとつの目標に向かって考えたり、話し合ったり、工夫したり、あそびや活動を自分達で展開していきます。進級して間もなく、クラスの前にある畑を見ながら「前のたけなはんはここでトマトとかきゅうり作ってたね」「僕もうちで食べた」「私ピーマンがいいな」「ねえ、野菜を作ろうよ」という子ども会話をきっかけに、畑作りが始まりました。何を植えようか話し合ったり、肥料や腐葉土を混ぜて土作りもしました。収穫した野菜はゆでたり、ホットプレートで調理して食べ、子ども達はこれをバーベキューと呼んで「今

日もバーベキューやろうよ」と何度もリクエストしてしました。

五月には、農家の畑でさつま芋の苗植えです。年少、年中組の分も「任せといてー」と張り切って植え年長児としての大きな喜びを感じていました。

六月は『お泊り保育』に向け、どんなことをしたいか、自分達でどんな仕事ができるか話し合いを重ねました。自分の思いを伝えつつ、相手の思いも聞き入れ、折り合いをつけることができるようになっていきました。

お泊り保育を終えると「みんなで頑張ったね」「楽しかったね」という思いを共感出来、一泊二日を共に過ごした子ども達は仲間との関係がぐっと深まりました。



九月からは運動会に向けての活動が始まります。年長全員が走るリレーでは、バトンを次の友達につなぐために、転んでも靴が脱げても必死で走ります。悔し涙を何度も流したり、そんな友達に寄り添いみんなが励まします。すると「今度はもっと頑張る」と気持ちを立て直す姿に大きな心の成長を感じました。

ダンスでは、みんなの力を合わせる、すばらしい力になる、その心地良さを子ども達自身でできたことでしょ。



十一月の作品展では、グループに分かれて共同制作を行いました。何を作りたいか、どうやって作っていくのか、どんな材料や道具が必要か、グループの仲間と話し合いながら進めていきます。作る過程では紙を丸める子、ガムテープを切る子、丸めた紙を貼る子、と自然に役割り

分担をして取り組んでいます。Aくんがダンボールカッターを使って厚手のダンボールを切っていますが、なかなか思うように切れません。その様子に気付いたBくんは黙ってAくんの背後に回りAくんの右手に手を添え、左手ではダンボールを持ち一緒に切り始めたのです。Bくんの言葉のないさりげない行動に心が温かくなりました。



十二月に行った片瀬山のハイキングでは、2km弱のコースを歩きます。長い距離を歩く経験が少ないCくんがみんなからどんどん遅れていきます。「もう無理。だめー」と弱音を吐くCくん。すると遠くの方から「Cくん、Cくん、頑張っ！待ってるよ」と友達の声が聞こえてきます。すると「みんなが呼んでる」と気持ちを立て直し、最後まで歩くことができました。

湘南学園幼稚園の子ども達は素敵だなどと思つ所がたくさんあります。自分と友達とは違う思いがあるということを受け止め、それを互いに認められること『友達の頑張っている姿やできるよになったこと、その子の良さを心から喜んであげられること』この力はこれから始まる小学校生活で、より大きな自信や自己肯定感、仲間関係の深まりにもつながっていくと思えます。

仲間とともに過ごした園生活でしっかりと根を張った子ども達。これから夢に向かってぐんぐん芽を伸ばし、いろいろな花を咲かせてくれることでしょう。



「湘南学園小学校2015」

小学校長 榎本勝己



はじめに、湘南学園小学校として湘南学園高等学校を卒業される児童・生徒の皆さんに、心からの祝福と励ましを送ります。それぞれの進路において、素晴らしい一年間となりますように心から期待をしています。また卒業生の保護者の皆様にも、お子さまのご卒業をお祝い申し上げます。

さて湘南学園小学校の2015の取り組みはどんな魅力あるものになるのでしょうか。

一つには、小学校隔週五日制が新たに開始される年度になるということ。人間性豊かな理想教育をめざす「改革基本大綱」を実践する環境づくりを通じて、よりよい湘南学園小学校の教育を子どもたち、保護者、教職員の協力で共同をもって創造していくこととなります。

二つには、湘南学園小学校教員の教育・研究力の一層の向上をめざすということです。そのための校内外研修や授業研究会を強め、各教科会の活性化が大事になります。その一環とし

て、秋には「湘南学園小学校教育研究会」の開催をめざします。日頃の成果を来校された各私立小学校教員の皆さんへ発表し、ご意見をいただきながら、その成果と課題を、湘南学園小学校の教育の向上のために還元していくことが求められています。

三つには、総合学園湘南学園の一員としての湘南学園小学校が、幼稚園と、そして中学校・高等学校と連携・接続・一貫の取り組みを新たなステージに進めることです。総合学園としてのリソースを有機的に絡め、それぞれの教育課程の独自性を尊重しながら、連携・接続・一貫の新たな取り組みを進めることで、湘南学園がもつ総合力を、湘南学園教育の質の保証につなげ、関心をもたれる皆様に強くアピールすることができると考えています。

四つには、「湘南学園小学校アフタースクール2015」が、質量共にアップして開始されます。魅力的な新プログラムも加わり、新入学者の保護者の皆様も含め期待感が高まっています。

まず。同窓会からは、アフタースクール終了後の駅への見送りボランティアを継続して行っていただき、保護者の皆様に安心感を与えていただいています。

五つには、「湘南学園小学校グローバル教育2015」を開始することです。いくつかありますのでご紹介しましょう。

これまでエコスクール認証取得プログラムを湘南学園小学校全体の取り組みとして成功させることができました。環境教育のグローバルスタンダードを、まさしくこのエコスクール委員会の諸活動が担い実践しているのです。現在、エコスクール認証継続取得の取り組みを全学をあげて進めています。

次いで、現在教育課程において設置されている「英語（外国語活動）の時間」の増単位（とりわけ低学年）と担当スタッフの強化を図ります。

また新たな企画として、インターナショナルスクールと湘南学園小学校とのグローバルサマ・スプリングコラボプログラム実施の検討に入っています。異文化理解・外国語活動か

ら「英語教育」への流れが初等教育においても強まっているなか、教育課程をふまえた足元からのグローバルな取り組みとして、この企画を成功させていきたいと考えています。

六つには、湘南学園同窓会からのご協力をいただき、湘南学園小学校の子どもたちを対象にしたお話、「講座」を担当いただくことの検討を進めています。同窓会の皆様は、様々な分野でご活躍された方々が多数おいでと聞き及んでいます。先日、覧会長、前川副会長、山口

広報担当の皆様と率直にお話させていただき、ご協力いただく方向で双方の検討に入っています。湘南学園は幼小中高を併せ持つ総合学園であり、その強さを総合力として各教育課程において発揮するには、PTAはもとより同窓会、後援会のご理解とご支援をいただくことが不可欠です。

最後に、地域のなかの湘南学園小学校、湘南学園という意識を強く持ち、地域との連携・協力を今まで以上に強めていくことです。そして地域に誇ってい

ただ湘南学園小学校、湘南学園になるよう努力を重ねることです。湘南学園は広域避難場所の一つとなっており、台風・豪雨・震災・津波などによる避難勧告の際には、少なくとも周辺地域の方々の命を守る避難場所となります。日頃より、地域の一人としての役割を担い、愛される湘南学園小学校になるように、全教職員が自覚を高め、日頃からの対応をすることが大事です。



「第56回 関東地区私立小学校教員研修会」

会場校としての報告

36校の私立小学校(約701名)の参加

・全クラス「授業公開」

・「釜石の奇跡」片田敏孝教授から学ぶ

・模範授業/16部会の研修

小学校

教頭

河本 洋子

教育研究主任

五十嵐竹虎

11月15日(土)秋晴れの中、本校を会場に「第56回関東地区私立小学校教員研修会」が盛大に開催されました。

当日は、神奈川県を中心に、千葉・埼玉・静岡・茨城・栃木の各県から701名という過去最高の参加者に加え、私学関係者・全体講演者・16部会の講師・行政の方など、約790名をお招きいたしました。

この関東地区私立小学校教員研修会は、各校30年に一度担当するとも言われ、本校では初めての開催となりました。この機会に、80周年記念事業の一つである新校舎をお披露目する目的もあり、参加者も増えて結果的には最



大規模の教員研修会となりました。

【全学級 授業公開】8:50

今年度、小学校では「学び合 い」:つなげる学び・つながる学 び(学び合いを支える活動の探 求)」という研究主題を掲げ、校 内授業研究会や各種の研修会を 開いて、研究修養に努めてまい りました。

こうした流れの中で、この教員 研修会の場を「湘南学園小学校 の教育実践を世に広くアピール する絶好の 機会」と考 え、1年生 から6年生 までの全18 学級で授業 を公開し ました。一部



の部会では

「振り返りの時間」が設けられ、今後の授業づくりに結びつく、大変貴重なご意見ご感想をいただくことが出来ました。

【開会式】10:00

開会式は、アリーナにて行い、関東地区私立小学校連合会副会長の齋藤滋氏・日本私立小学校事務局長の清水良氏・私学振興課長の南雲正二氏の各氏から心のもった励ましのお言葉をいただきました。榎本勝己校長からは会場校を代表して、皆様を歓迎するご挨拶がありました。



が

【全体講演】10:30~12:30

続いて、防災研究者で「釜石の奇跡」で知られている群馬大学大学院理工学府教授・群馬大学広域首都圏防災研究センター長の「片田敏孝先生」を講師に招いて、防災に関する全体講演会を、会場校主催で2時間行いました。

演題は、「想定外を生き抜く力を育む防災教育」学校・家庭・地域で取り組む命を守る絆の防災」。『災害で人は死んではならない』と、開口一番「防災教育の必要性」を強調され、防災教育の本質

は、「子ども達に生き抜く力を育み、そして、そのような子ども達が大人になり社会を築いていくからこそ、防災教育をしっかりとやら

ないといけない。」「あの日、子ども達は一所懸命逃げてくれました。そんな子どもにもなつて欲しいという思いの中で、防災教育は、いざという時、本当に逃げられる子どもにする。そのために、人は内面から変わらなくてはならない。」と、様々な状況で津波に遭遇した子ども達の事例を挙げながら、内発的避難意識を育てる必要性を、繰り返し繰り返し話され、「自分の命を最優先に守れる子どもであることの大切さ」を強調されました。

また「防災教育は、災い教育ではない。私たちは海から沢山の恵みを受けている。地域への感謝を忘れてはならない。その時、その日は、しっかりと逃げる。それがその地域に住むお作法です。」とも述べられ、終了後拍手が会場に鳴り響きました。



だけ

は今後の防災教育の励みとなりました。

【16部会研修】13:30~16:00

午後からは、国語・算数・理科・社会・生活総合・音楽・図画工作・家庭・体育・学校保健・学級経営・学校図書館メディア教育・外国語・学校劇・教頭会の計16ブロックに分かれて、部会別研修会が行われました。

このうち、国語は2年ひよどり組、算数は3年しりうす組の子ども達と共に、外部講師をお招きして「模範授業」が行われました。両部会とも100名前後の先生方が授業を参観していました。子ども達も緊張感を抱きつつも生き生きとした表情で、積極的に授業に参加していました。

多くの方のご協力を得ながら、無事に教員研修会を終えることが出来ました。当日お手伝いをし、支えてくださいましたPTA保護者の方々に心よりお礼申し上げます。

今回の経験をもとに、今後ともわかる楽しい授業・学校づくりを進進していきます。



五年生宿泊体験学習『雪の学校』活動報告

小学校五年 学年主任 鈴木智洋

一月二十日から二十三日にかけて、五年生は新潟県十日町市を訪ね、『雪の学校』を行いました。



『雪の学校』は、雪国の暮らしを体験し、生活や環境に対する視野を広げ、人間性をより豊かにすることを目的としたプログラムです。今年で四度目の実施となりますが、「六年度で最高の思い出だった」と語る卒業生が現れるほど、子どもたちの間で人気の行事となってきました。

【二日目】
二日目は、スノーシュー体験とわら細工体験をしました。スノーシューとはかんじきのようなもので、雪上歩行を補助する道具の一つです。子どもたちはこれを履いて、雪に埋まったブナ林を歩きました。

【一日目】
新幹線やほくほく線を利用して、新潟県のまつだい駅へ向かいました。途中、越後トンネルを抜けたところでしようか。急に辺り一面が真っ白に染まり、雪景色に変わりました。

「これが銀世界かあ。」
「木のとつべんが横に見えるって不思議だね」
子どもたちは、初めて見る景色や新雪の感触に、目をキラキラ輝かせていました。

【二日目】
二日目のプログラムは、民泊体験です。十日町に住まわれている方々の民家を訪ね、実際に生活体験をし、雪国の暮らしを学びました。

農家のご家庭に泊まった子どもたちは、お餅を作ったり、農業に関わるお話を聞いたり。大工のご家庭に泊まった子どもたちは、木を加工してお箸を作ったり。それぞれ内容は異なりま

【三日目】
三日目のプログラムは、民泊体験です。十日町に住まわれている方々の民家を訪ね、実際に生活体験をし、雪国の暮らしを学びました。

農家のご家庭に泊まった子どもたちは、お餅を作ったり、農業に関わるお話を聞いたり。大工のご家庭に泊まった子どもたちは、木を加工してお箸を作ったり。それぞれ内容は異なりま

【最終日】
お世話になった民泊の方々とお別れ会をしました。たった一泊という短い期間ですが、まるで本当の家族のように親しくなれたようで、別れを惜しみ、涙を流す子どもも少なくありませんでした。

「この思い出は、ずっとずっと忘れません。」
今年も感動にあふれ、充実した四日間となりました。

松代では、地元の方々からの歓迎を受け、3メートルを超える積雪の中、雪遊びをしました。



すが、普段出来ない貴重な体験を重ね、また現地の方々の温かい心にもふれ、たくさん感動を得ていたようでした。

「先生、小堺さんって凄いいんだよ！あのね……」

後日、民泊先の様子を聞いてみたのですが、語る子どもたちの方がどんどん盛り上がってしまい、話の尽きることがありませんでした。

【最終日】
お世話になった民泊の方々とお別れ会をしました。たった一泊という短い期間ですが、まるで本当の家族のように親しくなれたようで、別れを惜しみ、涙を流す子どもも少なくありませんでした。

教育評価の改訂 新「のびる芽」へ

小学校 学習指導主任 笠井多香子

【改訂前と改訂後】

旧	各教科で異なる表記	新	各教科で統一された表記
旧	全教科で統一された表記	新	全学年で3段階評価
旧	1・2年生は2段階評価	新	1・2年生は3段階評価
旧	花(できていない)	新	芽(あとひといき)
旧	3年生以上は4段階評価	新	実(よくできています)
旧	花(できていない)	新	つぼみ(あとひといき)
旧	芽(努力しよう)	新	芽(努力しよう)
旧	表紙(紙)に各教科の評価シート挟み込み形式	新	A4クリアファイルに全教科一覧型差し込み形式
旧	英語(年度末)の学習記述	新	総合的な学習の時間(各学期)の活動記録の追加
旧	追記	新	追記
旧	修了証なし	新	修了証なし
旧	修了証発行(学年末)	新	修了証発行(学年末)

のびやかに一人ひとりが成長していきける「のびる芽」として、今後も追求が続きます。



国際ロータリークラブ・長期交換留学等とインターアクト

中高企画主任 吉川謙太郎

湘南学園中高では、国際交流の幅が着実に広がってきています。

その拡がりをもたらす大きな契機の一つとなったのが、2013年6月にインターアクトクラブに加盟したことです。インターアクトクラブとは、地域密着の社会奉仕団体であるロータリークラブの青少年版といえるようなものです。本校では、生徒会総務委員会の高校生が中心となり、藤沢ロータリークラブの皆様方の絶大なご支援をいただきながら活動しています。その主な活動は、「学校や地域社会のための活動」と「国際理解をめざす活動」ですが、ここでは、後者の方を簡単に紹介させていただきます。

まず、本校の国際交流の幅を大きく拡げてくれたものに、ロータリークラブ青少年交換留学制度があります。そのもとで交換留学生に選ばれた高1女子生徒が、昨年8月より1年間のブラジル留学に派遣されています。

ブラジルの水にも馴染んだといったところででしょうか、夏のブラジルから学校に送られてきたクリスマスカードには、「本当に素敵な人たちに囲まれて、毎日が楽しい」「1日1日を大切に、ポルトガル語のほうも精進します」などと書かれています。とても充実した日々を過ごしているようです。これも、ブラジルで受け入れてくださったロータリアンの皆様のおかげです。彼女には、若い力を十全に發揮して、いろいろなことを吸収し、一回りも二回りも成長してきてもらいたいものです。

そして、ブラジルからは、ナターリアさんをお迎えしました。彼女には、高2に在籍してもらっています。この原稿を書いているのは、1月の合唱コンクール後なのですが、このタイミングでナターリアさんにも話を聞いてみました。

「（合唱コンクールのような行事はブラジルにはないので）皆とできて、とても楽しかった」と日本語で答えてくれました。彼女は、通学の電車の中で単語カードを活用するなどして日本語を覚えていることですが、驚くべき上達ぶりです。他にも、「学校が大きい」「ブラジルの学校は7時から13時までなので、日本では忙しい」「ブラジルでは5教科の授業しかないが、日本には家庭科や保健体育科などの将来に直接役立つ授業があるのが素晴らしい」「日本はいろいろと組織化されていて、道路ひとつをとってもとてもきれいな話をしてくれました。ここにも、ロータリアンや、ホストファミリーの方々の大きなご協力があることはいままでありません。彼女には、このまま、湘南学園や鶴沼、そして日本を大好きになってもらいたいものです。」

また、インターアクトクラブの毎年の恒例行事として「台湾研修旅行」があります。昨年の12月25日～28日（3泊4日）の日程で、本校から3名の生徒が参加させていただきました（全体では22名の高校生）。そのうちのひとりから話を聞いてみたところ、「台湾の高校生と何回か交流する機会があったが、みんな本当に親切だった。台湾の人たちは、英語を完全にマスターして、そのうえ日本語を話せる人もいます。すごく刺激になった」「台湾が好きになって帰ってきた。台湾で友達になつた人たちとは、ラインなどで交流を続けている」等々、嬉々として語ってくれました。熱烈な歓迎を受け、高校生同士との交流で刺激を受け、美味しいものも食べてと、とても充実した研修旅行になったようです。

このように、ロータリークラブの方々によるご支援は、湘南学園中高が国際交流を推進して

現段階で、このような有意義な活動の成果を、より多くの生徒たちに還元していくことが今後の大きな課題であると考えています。これは、いわゆるグローバル社会の進展の中で、社会の一員として自分らしく生きていく個人を育成していくという大命題と直結します。多様性を認める感性と、人間社会の普遍的な価値を共有できる感性を根本に持ち、その上に必要なスキルを身につけた、湘南学園発の「グローバル社会に貢献できる人間」を、学校の教育活動全体を通して育成できるように環境の整備をしていかななくてはならないと考えています。そしてそれは、多くの方々のご理解とご協力があったからこそ達成可能な、喫緊の課題と認識しています。

いくうえで、もはや欠かせないものとなっています。このような機会を与えてくださったロータリークラブの皆様は、改めて深く感謝いたします。今後、このご縁を大切にしていききたいと切に願っています。

ソーシャルメディアを巡る指導課題

中高生活指導主任 福田孝政

私達は現在、インターネット上において男女・国籍・距離に関係なく情報発信や会話をすることが簡単にできます。ほんの数十年前では考えられないことでした。このような場所は、ソーシャルメディアと呼ばれ、ソーシャルメディアの中でも、特に人と人のつながりが重視されているようなサービスはSNS（ソーシャルネットワークサービス）と呼ばれます。具体的にはMixi、Twitter、Facebook、LINE、blogなどといったサービスがこれにあたります。我々、大人の世界においても日常生活の一部としてもはやなっている現状があります。また、大人だけで中高生にとってもスマホやPCなどからこれらのサービスを利用する生徒が多く見られます。これらのサービスは急加速で進化をしています。便利で楽しい半面、一歩、使用方法を間違えると犯罪に巻き込まれるなど危険性も多く潜んでいる現状があります。

湘南学園の中高生には、これまでの間、ソーシャルメディア

の危険性について、中1生には毎年、「携帯電話・スマホ安全教室の実施」全校生徒への「インターネット・マナーモラル集」の配布などを行い、これらを使用する際の危険性について指導を重ねて参りました。また、これだけでなく全校生徒が集まる集会などの場面で、生活指導主任や校長から注意喚起をして参りました。しかし、湘南学園の中高だけに限らず、ソーシャルメディアを巡る様々な問題が多く発生している現状があります。二〇一一年三月に発生した東日本大震災。これを機に、これまでは、携帯電話やスマホを持ち込みすることすら禁止をしていた多くの学校がいざというときの「緊急連絡手段」としての学校への持参を認めることとなりました。

湘南学園中高では、震災前から申請することによって携帯電話・スマホの持ち込みを認めていました。震災当日は、保護者の方々へ自分が学校にいて安全なことを自分たちの携帯電話やスマホで連絡をしている光景をいまでも記憶しています。

しかし、震災から時間が経過し、何を持って「緊急時」と判断するかが、各学校の大きな課題となっています。一度、学校への持ち込みを認めた携帯電話・スマホの持ち込みを再び「禁止」とすることはとても難しい現状があり、これと同時に並行でSNSの普及によるトラブルが多く発生することとなりました。安易な気持ちでインターネット上に掲載してしまった画像から、学校名や個人名などの個人情報流出してしまいトラブルに巻き込まれる中高生が多く出てしまったり、未成年による飲酒や喫煙の場面がインターネット上に流出してしまったり、世間を騒がせる大きな事件となりましたが、アルバイト店員が悪ふざけで行った行為をインターネット上に投稿し、このアルバイト店員のその後の人生だけで無く、お店や会社が倒産に追いやられることとなってしまったりと、決して他人事、他の学校で起こっていることというだけではなく、湘南学園の中高生の皆さんにも、いつ、どのような形で起こりうるのかが分か

らない身近な問題としてとらえる必要があるかと思えます。

このようなことから生徒の皆さんの身を守るといふ視点から学校として「ソーシャルメディアガイドライン」の策定をしています。「ガイドラインってなにか？」「あれもダメ、これもダメというように校則化するのか？」と思われるかも知れませんが、しかし、禁止事項を増やすということではなく、安心して安全にこれらを使いこなせる人達になつてもらいたいということとです。インターネットの恐ろしいところは「世界中の情報を手に入れることができること」です。生徒の皆さんが、これらのトラブルに巻き込まれた時に必ずいうことがあります。それは「友人しか見ないと思つた。」ということとです。ところが外部から寄せられる情報は「湘南学園の中高生に〇〇くんはいませんか？」掲載された人名や住所まで簡単に特定をされてしまう場合もあります。生徒の皆さんは、これら携帯・ス

マホを使用し、外部に情報を発信する場合には発信者としての責任が問われるのです。自分の個人情報ではなく、一緒に画像に掲載された友人の個人情報流出してしまう場合もあるのです。生徒の皆さんは自分自身で責任を持つと同時にこれらの社会に生きるひとりの人間として、自分自身の身を守ることも必要となってきます。そのためにも、今後、時間をかけて学校として「ソーシャルメディアガイドライン」を完成させていければと思います。

急速に進むこれらの社会に安心してかけがえない充実した中高生としての生活が過ごせるよう、我々教員も、これまで以上にこれらソーシャルメディアに関して勉強をしていき、保護者の皆様とも生徒達を取り巻くこれらの社会を安心して生活してもらえよう、より連携を深めていければと思っております。



「中3研修旅行

「生き方を考える第1歩」

中学3年学年主任 川口 薫



毎年、中学三年生で行われている広島と山口県周防大島を舞台とした「研修旅行」は、戦争という約七〇年前に日本に起こった悲惨な事実を受け止め考え、ていく事や、二泊三日の民泊体験を通して、島民の方々が守っている事や、工夫している事などを学び、考える機会になる絶好の旅行です。この旅行で一生忘れる事の出来ない思い出を作った卒業生や成長を遂げた卒業生も多いのは、言うまでもありません。「体験をして学ぶ」事や「民泊をして学ぶ」事をベースにして、今年度は「感じる」こと、「発見する」こと、「考える」ことを強調した研修旅行を企画しました。この三つの点を大切にするためには、①生徒たちが主体的に参加し、学べる内容にすること、②個人個人が「学びたい」と思えるプログラムを構成すること、③自分が「学びたい」プログラムに参加できる事が重要だと考えました。様々な団体への依頼や交渉、周防大島の方々の多大なるご協力によって実現することが

できました。今回の研修旅行にご協力いただきました様々な方面の方々にこの場をお借りして、改めてお礼を申し上げます。ありがとうございます。

これに加えて学年が力を入れた点は、研修旅行を単体の行事としなかつたことです。四泊五日の研修旅行では、広島で実際に被爆を体験された方からお話を聞いたり、核廃絶に関わり運動をしている方に話を聞くプログラムがありました。また、山口県祝島に初めて渡り、上関原発建設予定地問題に反対し、運動を続けている山戸さんと國弘さんに話を聞いたり、祝島独特の生活スタイルを知るため島内散策をしました。周防大島では島民の方々が大切に守っている島での暮らしについて二泊三日の民泊体験を通じて感じたり、Iターン・Uターンをして戻って来られた方の話を聞くなど、様々な場面で、学園の授業だけでは、学習することが出来ない事を学べたのではないかと思います。この研修旅行中に体験する様々なプログラムや民泊を通じ

て、生徒達が沢山の事を感じ、発見し、考える場面に繋がるように、①広島で起こった原子爆弾投下の事実と被爆者の苦しみ、未だに無くならない核の問題など「平和」に関する事、祝島や周防大島の島民たちは②都会の様に便利ではないが、島の生活やくらしを守り、島独自の生活を大切にしていく「くらし」に関する事、③瀬戸内の美しい海や自然豊かな山々を島民たちは、どの様な工夫をしながら守っているのかなど「自然」に関する事、この三つのテーマについて行った事前学習（各テーマ二時間ずつ計六時間）では、ワークシートに沿って、自分の考えをまとめたり、他者の考えを聞き、視野を広げていく事をねらいとしました。この事前学習が無ければ、生徒たちは初めて知る事や体験した事に対して、衝撃を受けたりただ感動するだけで、今の自分達に求められている事・変化させたい事まで考えることは出来なかつたのではないかと思います。また、研修旅行で個別プログラム

「事前学習」
「研修旅行」
「事後学習」
「卒業論文」

生きる力

が多かつたため、そこで感じた事・発見した事などを発表し、学年全体で理解を深めるために事後学習も行いました。そして現在、中学三年生たちは、みずみずしい感性を持つ一五歳という時期に、事前学習や研修旅行、事後学習の総まとめとして、「一五歳の自分に出来る事は何か」また、「これから、どんな生き方をするのか」について、考え、主張する卒業論文づくりに力を注いでいます。この四つを一つの活動とした事で、本当の生きる力を身につけることに繋がるのではないかと考えています。

問題として意識した事や変える必要性があると感じた事などを題材にしながら、冬休みに下書きを書き終えました。現在、生徒一人一人が書いた下書きを学年教員が分担し、目を通していただきます。学年教員が予想していた以上に、生徒達は、自分らしい主張をしています。この生徒達の主張が今後の「生きる力」に繋がってほしいという気持ちを含めて、学年教員がひとりひとりの下書きにコメントを書いています。三〇〇〇字の論文は、生徒達にとつて簡単に書けるものではありません。しかし、一五歳という感受性豊かな時期に、体験や実際に目にした事や聞いた事を自分や日本の問題として捉え、文章にする事は、今後の財産になるのではないかと私は思います。卒業論文は、文集として発行します。是非、生徒達の主張を読んでみてください。

卒業論文については、学年の国語を担当している奈良先生の指導のもと、現代文の授業で論文と感想文の違いや書き方、理論だてなどを学習しています。事前学習や研修旅行でテーマとした「平和」・「くらし」・「自然・エネルギー」の中から、研修旅行の体験や実際に感じた事や考えた事などを元に、



《学校法人から》

【理事会報告】

前号掲載以降、次の理事会を開催いたしましたので、ご報告いたします。

- 第5回定例理事会 8月23日
- 第4回臨時理事会 9月5日
- 第6回定例理事会 9月20日
- 第5回臨時理事会 10月9日
- 第7回定例理事会 10月25日
- 第6回臨時理事会 11月14日
- 第8回定例理事会 11月29日
- 第7回臨時理事会 12月5日
- （各担当部会として開催）
- 第9回定例理事会 12月20日
- 第8回臨時理事会 1月9日

【主要な議題・報告】

- ・中高教室棟の教壇入替え完了について
- ・幼稚園改修工事契約金額と工事完了について
- ・幼稚園保育5日制、小学校隔週5日制への移行の経過報告
- ・2014年度の清掃等建物管理業務契約について
- ・監査法人との契約更新について

・教職員対象財務説明会について

- ・2014（平成26）年度補正予算（案）の確定について
- ・遺贈による寄付制度について
- ・幼稚園保育5日制・小学校隔週5日制への移行について
- ・神奈川県私立学校検査の報告
- ・中学校入試システムのバックアップ対応について
- ・規約変更の進捗状況について
- ・中高隣地購入について
- ・遺贈制度導入に伴う協定先について
- ・2014（平成26）年度地域別最低賃金額改定に伴う賃金の支払について
- ・カフェテリア・母の文庫・同窓会室への案内看板作成について
- ・2015（平成27）年度予算編成方針（案）について
- ・カフェテリア運営コンサルティングについて
- ・2015年度から2017年度までの小学校広報用学校案内制作について
- ・全学の教育振興基金今後の適用について
- ・寄附行為の検討について
- ・食育の継続的な推進・発展・食育のためのカフェテリア利用のあり方

・2015年度小学校募集定員について

- ・湘南学園教育振興寄付金の新設について
- ・中高長期修繕工事の見積り合せについて
- ・2015年度理事長の選任方法について
- ・2014（平成26）年度補正予算（二次）案について

【評議員会報告】

前号掲載以降に開催された、評議員会について、ご報告いたします。

第3回評議員会 9月20日

【主要な諮問事項等】

- ・中高隣地購入について
- ・2014（平成26）年度補正予算（案）について
- ・幼稚園保育5日制・小学校隔週5日制への移行について
- ・遺贈による寄付制度について